

# 平成29年度 学校研究全体計画

小松市立符津小学校

## 1. 研究主題

「自ら学び，共に学び合う子の育成

～考えを広げ深める授業づくり 国語科を中心として～

## 2. 主題設定の理由

本校は，昨年度までの2年間にわたり，国語科の授業研究を通して，小松市のわかる授業プロジェクト，主体的・協働的な子どもの学びを研究し推進してきた。

その研究の中で，「B基準の明確化～付けたい力の明確化～」 「まとめ・ふり返しによる児童の学びの自覚化」に重点をおいて取り組んできた。

これらの取り組みにより，教師は指導の視点が明確になり，児童にどんな力がどこまで付いたのかを評価しやすくなった。また，児童は何を学んだのか自覚できるようになり，前に学んだことが次の学習に生かされるようになってきた。

しかし，「自ら学び 共に学び合う子」を育成していくという研究主題に立ち戻り，本校の児童の現状を考えると，この主題に対する教師の意識が弱かったのではないかと感じた。「自ら学ぼうとする子」でなければ，「共に学び合う」ことにもつながらないと考え，再度この研究主題のもと授業改善を進めていきたい。そして，副題として，「考えを広げ深める授業づくり 国語科を中心として」とした。このような授業づくりを学校全体で共通理解し取り組めるよう，昨年度までの研究の重点をさらに進め，教師の授業力向上を目指していきたい。

**自ら学ぶ子とは**・・・「学びたい」という意欲をもち，進んで学習に向かう子  
友達と共に学習しよう，学習課題を解決しようとする子  
考えながら相手の話を聞き，伝わるように表現できる子  
自分の考えをもち，考えを進んで書ける子  
授業はみんなで作ろうと思っている子  
既習を生かして学ぶことができる子

**共に学び合う子とは**・・・みんなで解決できて良かった，楽しかったと思える子  
みんなで話し合う，全員で分かり合えることが当たり前になっている子  
学び合い，話し合うことで自分の考えを表現し深めていくことができる子  
自分の考えを語り合える子

### 3. 検証について

重点	教師の手立て	児童の変容	検証（方法）
①	B基準を明確にした授業設計	まとめやふり返り	お宝帳, ふり返りノート, 発言
②	条件を設定した自分の考えを書く機会の確保 コーディネート	条件に合った文, まとめを書くことができる。	ノート
③	コミュニケーションタイムの充実	話す・聞く	児童アンケート
④	学習の基盤づくり 家庭学習	基礎・基本の定着	がんばりテスト

### 4. 研究の内容

#### (1) 思考を深める授業づくり(授業づくり部)

##### (ア) B基準の明確化

- ・付きたい力はつきり表（説明文）に明記した重点目標を意識した授業設計
- ・重点目標がはっきりする言語活動の設定

##### (イ) 主体的・対話的な学び合い学習の充実～ペア・グループ・全体での話し合い～

###### ◎話し合いのめあて・目的

自分の考えを広げ、深めるための交流を行う。そのために、児童が交流の目的をはっきりと持てる必要がある。

###### 聞く

- ・相手の考えを否定しない。
- ・どうしてそう考えたのか、考えながら聞く。
- ・顔を見て聞く。(伝わる聞き方)
- ・違う考えはメモしておく。

###### 話す

- ・メモを見ないで、伝わるように工夫して話す。
- ・相手の顔、みんなの顔を見て話す。

###### グループ交流

- ・1人ずつ自分の考えを話す。
- ・話し合いを続ける。
- ◎質問する。
- ◎友達から学んだことを伝える。
- ・どうしても話が續かないようなら、他のグループの話し合いに合流する。

###### 全体交流

- ・グループ交流で友達から学んだことを話す。  
自分の考えと比べて友達から学んだこと
- ◎広がった・・・それもある、なるほど
- ◎深まった・・・すごい、考えが変わった

◎考えを広め、深める教師のコーディネート

(発問・話し合いでの手立て・話し合いの内容を整理する)

### 教師のコーディネート

#### ① 単元に入る前の教材研究・教材準備・布石

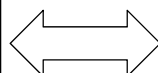
- ・関連図書の選書（既習が生かせるのかなども考える）や与え方
- ・効果的なワークシートの作成
- ・効果的な学び合いの場の設定
- ・既習事項の確認
- ・板書の工夫・・・構造的な板書，児童と共につくる板書
- ・考えの可視化・・・ホワイトボード，ICT  
小黒板，短冊など

#### ② 児童の考えを広め、つなげ、深める教師の関わり

- ・問い返し，切り返し，児童の思考をみとりながらの発問  
(比較・分類・関連付け・多面的に見る 意見の焦点化を図る)
- ・意図的な指名

#### <児童の思考力の系統>

- 低：列挙する・順序づける
- 中：比較する・関連づけて考える
- 中・高：分類・整理する
- 高：推論する・多面的に考える



#### <教師の効果的な関わり>

- 焦点化する，比較する，分類・整理する
- 変容に気付かせる，補足する，理由をおさえる，根拠を明確にする，問い返しをする，類推する

### (ウ) まとめやふり返しによる学びの自覚化

#### <まとめ>

◎学習課題に対するまとめ（課題に対する答え）

**条件設定**・・・キーワード，書き出し，字数・段落設定など条件に合うようにまとめる。

#### <ふり返し>

◎1時間の授業のふり返し

どんな学びがあったのかを下記の視点を意識して書く。

#### (ふり返りの視点)

- ① 分かったこと，はっきりしたこと
- ② できるようになったこと
- ③ 新しく知ったこと，気づいたこと
- ④ まだ分からなかったこと
- ⑤ これから生かせそうなこと

### お宝帳

◎単元末のふり返し

- ・単元末に単元全体をふり返し，お宝帳にまとめる。
- ・この単元でどんな力が付いたのか(できるようになったのか)をグループで出し合い，全体で交流しながら，まとめていく。
- ・児童自らが手に取り，次時からの学習に生かせるお宝帳としていく。

## (2) 学習指導(学習指導部)

### (ア) 言葉の力を育てる活動

#### ①「コミュニケーションタイム」の設定

- ・低・中・高学年のめあてを設定し、共通のテーマについてペア・グループで話し合う。
- ・話し合いの仕方を指導し慣れていく時間とする。

##### 1・2・3年 めあて

- ・相手の方に体を向ける
- ・最後まで聞く。
- ・うなずいたり、反応したりして聞く。
- ・大事なことに気を付けて聞く。
- ・丁寧な言葉づかいで、はっきり話す。
- ・わけも言う。
- ・順序に気を付けて話す。
- ・質問や感想を話す。

##### 4・5・6年 めあて

- (グループ交流の時、司会者を決める)
- ・相手の話に反応したり、あいづちを打ったりする。
  - ・話の意図を考えて、自分の考えと比べながら聞く。
  - ・自分の考え、根拠や理由をはっきりさせて話す。
  - ・結論を先に言う。
  - ・他の人に質問したり、感想を言ったりする。  
(最後に司会者が内容をまとめる。)

**テーマ 例** 好きなもの、遊びの紹介、最近読んだ本について、問題を解決するために話し合うなど、学年に応じた内容。

#### ②さまざまな言葉に触れる機会の設定

- ・新出漢字(当該学年の漢字)の定着
- ・学習用語を使用する
- ・家庭学習における音読の継続

#### ③読書活動

朝読書、チャレンジブック、図書ボランティアによる読み聞かせ、ブックトーク  
国語の授業における関連図書

### (イ) 発表力を育てる活動

#### 学校行事等における表現活動(学習発表等)

- ・音声言語の活動を中心とした発表(日々の授業での言語活動とつなげる)
- ・発表内容に触れた感想交流(異学年での) ・全校での詩の音読(群読)

## (ウ) 学習の基盤

### 「やる気・元気・活気」の徹底

やる気 チャイムと同時に 自分たちの声でスタート

元気 話すときは はりのある声で

話し方 かきくけこ (か：顔を見て き：きれいな言葉で

く：口を開けてけ：結論を先にこ：声の大きさ)

活気 聞くときは 目・体・心をむけて

友だちと学ぶ 友だちから学ぶ

聞き方 あいうえお (あ：相手を見て い：一所懸命

う：うなずきながら え：笑顔で お：終わりまで)

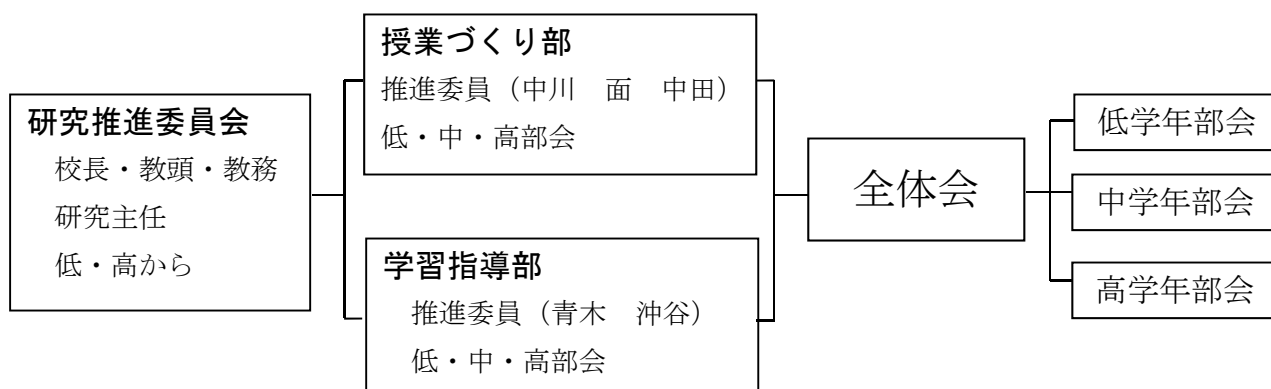
## (エ) 家庭学習

- ・学年ごとの「家庭学習の手引き」に沿って行う。
- ・内容は、「音読・漢字・算数」＋自学
- ・自学ノートを校内掲示し内容を交流する。

## (オ) 学校全体の言語環境の整備

- ・校内掲示物は、正しい用語や文字表記をする
- ・校内放送は、適切な言葉遣いで分かりやすく話す
- ・児童同士、児童と教師の関係の中で、適切な言葉遣いを意識する。

## 5. 研究の組織

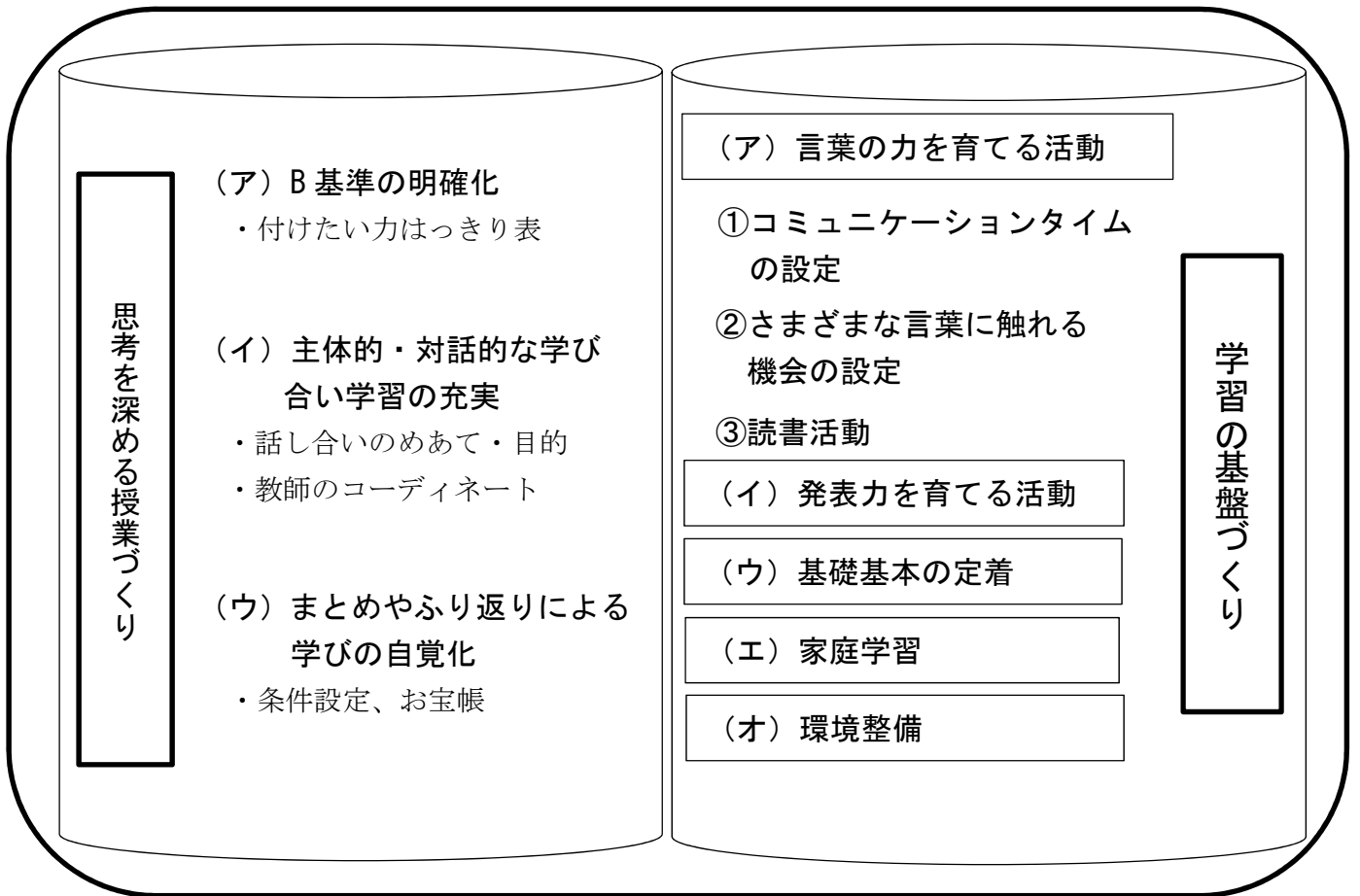
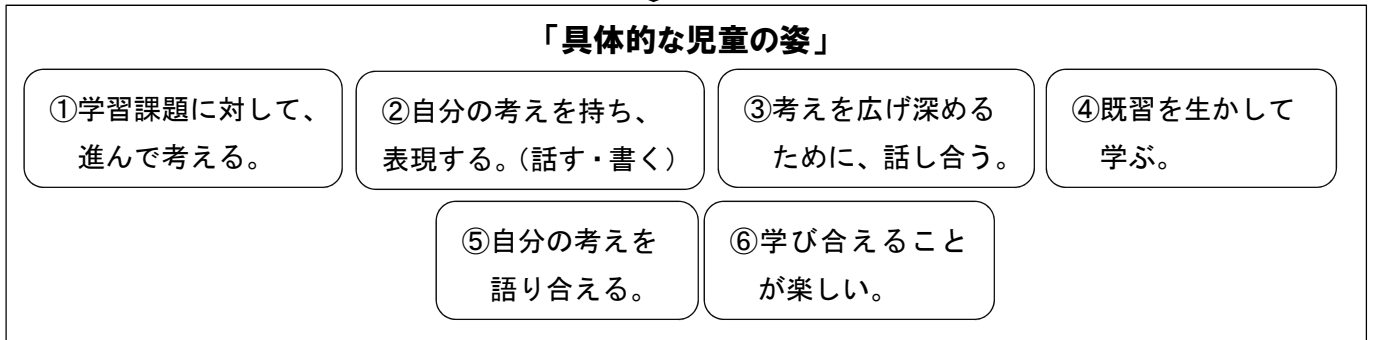


6. 研究構想図

〈小松市教育目標〉 ～智仁勇 あすのこまつを創る人～  
生涯にわたり みずから学ぶ人・思いやりのある 心豊かな人・すこやかで 活力のあふれる人・  
ふるさとを愛し 世界にはばたく人

〈学校教育目標〉 心豊かでたくましく、しっかり考え、自ら進んで行動する児童の育成

**研究主題** 自ら学び 共に学び合う子の育成  
～考えを広げ深める授業づくり 国語科を中心として～



**生徒指導の三機能を生かした学級経営**